

## いま、戦後世代が「戦場体験」を受け継ぐということ(1)

ビルマ戦線における拉孟全滅戦を事例に

戦争研究者 遠藤美幸

### はじめに

『「戦場体験」を受け継ぐということービルマルートの拉孟(らもう)全滅戦の生存者を尋ね歩いて』(高文研、2014年11月)

(1) 中国内陸部での「玉砕」・拉孟戦の実像を明らかにする。

公刊戦史『戦史叢書』による美化された「玉砕戦」の記述とは異なる戦場の実像。

(2) 2002年より、元将兵及び家族(遺族)の聞き取り調査(現在50名以上)

戦友会13年目、慰霊祭などの世話人、元参謀の「新古事記研究会」の助手。

(3) 戦場跡の現場に立つ。資料や聞き取りだけではわからないこと、見えてくるものは?

雲南は辺境であって「辺境」ではない?

(4) いまに生きる私たちがどのように「戦場体験」を継承すべきか?

「戦場体験」を受け継ぐことの意味を考える。

### 1. 拉孟研究との「出会い」

いまから30年以上も前の1985年6月、ニューヨーク行きの機内で、当時日本航空(JAL)の客室乗務員であった私は、偶然に拉孟戦の関係者であった元日航社員の小林憲一さん(当時65歳)に出会う。小林さんは中国軍に包囲され孤立無援の拉孟陣地に航空機から軍需物資を空中投下した元飛行隊長だった。当時は全くその事実を知る由もなかったが、小林さんとは住まいが近いといった偶然が重なって、長らく交流が続いた。

その後、6年近く勤務した日航を1988年に退職し、中退した大学に復学し、歴史研究者の道を歩む。日航での組合運動の経験から当時興味をもっていたのは労働運動の歴史であった。その後、慶應大学の大学院に

進み、イギリス社会史を学びはじめたが、結婚と出産、育児と研究の両立が難しくなり、第二子出産を機に1998年に大学院を去る。

機内で出会ってから17年後の2002年8月、小林さんから拉孟戦の陣中日誌や写真などが入った段ボール箱が、突然届いた。同封されていた手紙には、「壮絶な玉砕戦があったことを後世に伝えてほしい」と記されていた。はじめは、正直言って困惑した。こうした奇縁に導かれて、2002年から拉孟戦(ビルマ戦線)の研究をはじめ現在に至る。

### 2. ビルマ戦線とは?

中国に侵攻していた日本軍は、首都を中国内陸部の重慶に移して抵抗し続ける蒋介石軍(国民政府)に手を焼いていた。一方で、英米連合軍は、英領ビルマを通して蒋介石軍に軍需物資の補給を行っていた。この補給路を「援蒋ルート(ビルマルート)」と呼ぶ。日本軍の英領ビルマ侵攻の主要な目的は、この英米連合軍のビルマルートの遮断にあった。そのために当時の日本軍はビルマにも諜報活動を展開し、アウンサンらの反英ナショナリズムを利用した反英闘争を展開し、ビルマ内部からも英領の弱体化を謀った。

日本軍はビルマに大本営直属のビルマ謀略機関(南機関)を作った。南機関はアウンサンらの30人のビルマ・ナショナリストの青年たちを海南島で軍事訓練し、「ビルマ独立義勇軍」としてビルマ戦線に投入した。

日本軍は1941年12月の開戦後間もなくビルマに侵攻し、1942年5月にビルマ全土を制圧したが、1943年末には圧倒的な兵力と物量をもつ連合軍の猛烈な反攻に遭い、1944年7月

のインパール作戦の失敗や9月の拉孟全滅を機にビルマ防衛作戦は破綻し、1945年3月末のアウンサン率いるビルマ国軍の反日蜂起により日本軍は一気に劣勢に



## 坂戸の戦跡めぐり

日時 10月20日(土曜日)13時30分~16時  
集合 坂戸中央公民館2階和室(解散も)  
内容 弾薬庫やペトン(駐機場跡)、陸軍の標石など、市役所周辺の陸軍坂戸飛行場の戦跡を歩きます

転じた。

敗戦まで続いたビルマ戦線の戦死者は膨大で、投入した約33万人の兵力のうち、19万人が戦死した。ビルマ戦の戦死者の約8割が、マラリア、赤痢、脚気、栄養失調などが原因の餓死や傷病死であったという。まさに「地獄のビルマ」であった。

「ジャワは天国、ビルマは地獄、生きて帰れぬニューギニア」、「白骨街道」、「靖国街道」

### 【ビルマ戦線の特徴】

- (0) 諜報の闘い…戦争が始まる前から行なわれていた。
- (1) 地形と気候の戦い…雨期(5月～10月)と乾期(10月～4月 特に3月、4月は猛暑) ジャングル戦、山岳戦、砂漠戦、渡河作戦など
- (2) 多種多様な人びと…イギリス人、アメリカ人、中国人、日本人、台湾人、朝鮮人、インド人、グルカ人、アフリカ人およびビルマ人を主とする8大民族と135少数民族
- (3) 寄せ集めの戦場…拉孟戦だけでも6師団(龍、勇、祭、菊、安、狼)が従軍
- (4) 医学の戦い…病原菌の巣、ダニ、蚊 ヒル、アメーバ赤痢、マラリアなど
- (5) 輸送の戦い…補給路の遮断、補給の限界(飢餓)  
※陸路のビルマルート⇔空路のビルマルート・ハンプ空輸(連合軍側)  
※ビルマ鉄道隊の苦闘 例) 泰緬鉄道、インパール作戦
- (6) 列強の侵略戦争と反英独立運動の狭間で(ビルマ側から見る戦場)  
ビルマは「親日的」だったのか? 慰安所60カ所、レイプ、労務者、徴発(強奪)、虐殺などの加害の実態。(続く)

## 13周年のつどいの感想から(1)

◆ 戦場体験の研究を長年続けてこられたことに感銘を受けました。

日本はビルマの戦争で、戦争で欠くことのできない食糧他の後方支援を断って戦わせた。こんなひどい戦争は感心できません。始める前から死ぬということだったのだと思います。

いずれにしても二度と戦争をすべきではないと思います。日本人800万人、アジア人3000万人を殺したあの戦争。そうした多くの人々の声が憲法9条であると思います。

今後とも、平和な社会を目指してみんなで力を合わせて頑張りましょう。とても良かったです。ありがとうございました。

## 近隣の九条の会の2つの取り組み

西坂戸 大山 茂

この7月、近隣の九条の会の取り組みに参加してきました。

7月7日(土)、松山市民活動センターホールで、東

松山・小川・鳩山・川島・嵐山・吉見の6市町の九条の会の共催による「共同映画上映会」が行われました。

『米軍が最も恐れた男 その名は、カメジロー』が3回にわたり上映され、430名の方が鑑賞しました。

終戦直後の沖縄はアメリカの軍事占領下にありましたが、弾圧に屈せず、米軍を最も恐れさせた男がいました。

瀬長亀次郎氏は、那覇市長、国会議員として活躍し、多くの民衆から支持されました。その「不屈」の闘いが描き出されたこの映画は、参加者に大きな感銘を与えました。沖縄は、今なお日本にある米軍基地の70%以上を抱えています。

7月9日(月)、ウエスタ川越で、「九条の会」かわごえ連絡会主催「木村草太氏講演会」が「憲法という希望」というタイトルで行なわれ、540名が参加しました。

木村草太氏は首都大学東京の教授で、「憲法に込められた本当の力は…」というサブタイトルで、憲法についての講演を全国各地で行なっています。

この日の講演では、「張り紙の論理」で、権力の一極集中による国家権力の三大失敗(戦争・人権侵害・独裁)という張り紙から、「軍隊と戦争をコントロール」「人権保障」「権力は分立して独裁は許さない」という張り紙を貼ろうと訴えました。

安倍政権は、森友・加計問題を逃げ切り、悪法を次々と強行させた国会の閉会後も、憲法改悪を虎視眈々と狙っています。そうした中で、近隣の九条の会のこの取り組みは、6月の九条の会さかどの取り組みも合わせ、憲法9条の改悪は許さないという地域からの声の盛り上がりを実感させるものでした。

## 原発と核のゴミを考えるつどい 「核のゴミ、どうするの？」

講演1 原発と核のゴミ問題

講演2 福島第一原発の汚染水問題

2月に開催した「九条の会さかど 早春のつどい」で、長年地質学の研究に携わってきた小林忠夫さんが、福島原発事故での汚染水処理の杜撰さと、核廃棄物の「地層処理」の非科学性について、「坂戸にも核のゴミ? フクシマ・廃炉処分を地質学」と題してお話したのが切っ掛けとなって、下記の学習会が開催される運びとなりました。詳しくは、次号でお知らせします。

- 日時 10月6日(土)13時～15時30分
- 会場 鶴ヶ島市富士見市民センターホール
- 参加 300円(高校生以下無料)
- 主催 原発のない社会をめざす鶴ヶ島市民の会
- 連絡 石塚(049-285-6244)、青木(090-7949-9351)
- 協力 九条の会さかど

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

9月27日、10月25日、11月22日(第4木曜日10時～12時)  
会場は坂戸市役所に隣接した勤労女性センター談話室